

令和6年度

稲生小学校いじめ防止基本方針

## 1 基本理念

**いじめは、全ての児童に関係する問題である。**いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。

本校は、上記のことを踏まえ、以下の点を旨として、いじめの防止等のための対策を行う。

いじめは、全ての児童に関係する問題である。いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがあってはならない。そのためにいじめの防止等の対策は、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにすることを旨としなければならない。

いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、教育委員会・学校・家庭・地域・その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服するという強い決意で行われなければならない。

学校は、いじめを受けた児童を徹底して守り通す責務を有し、いじめを助長することはもとより、いじめを認識しながら、これを隠蔽し、放置するようなことが決してあってはならない。

## 2 いじめの捉え方

### (1) いじめの定義

#### 定義 いじめ防止対策推進法 第2条

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

- ・ 個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、いじめられた児童の立場に立つことが必要である。

### (2) 具体的ないじめの態様

- ・ 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・ 仲間はずれ、集団による無視をされる
- ・ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・ 金品をたかられる
- ・ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・ コンピュータやスマートフォン等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等

上記のいじめの中には、早期に警察に相談したり、直ちに警察に通報したりすることが必要なものが含まれる。被害者や加害者に対する教育的な配慮や指導を考慮し、警察と連携した対応を取ることも必要である。

### 3 校内体制

- ・ 学校は、いじめ防止のため、いじめが起きにくく、いじめを許さない環境づくりのためにいじめが発生した場合の対応やいじめ防止のための指導計画を示し、いじめの防止・早期発見のために全学年を対象とした、教育相談を年2回（6月と11月に実施）行う。
- ・ 校長をいじめ防止対応の責任者とし、「いじめ等対策委員会」を中心として教職員間の緊密な情報交換や共通理解の徹底を図り、一致協力して対応する体制で臨む。
- ・ 「いじめ等対策委員会」は、月1回や緊急な場合など必要に応じて開催するとともに、開催したときは議事録を作成する。その際、会は他の会と重ならないよう単独で開催する。
- ・ いじめが生じた際には、学級担任等の特定の教職員が抱え込むことなく、多様な専門性を持った職員が多面的に関わるなど、学校全体で組織的に対応する。
- ・ いじめを発見、訴えを聞いた場合は、即日に集約担当に報告し、一両日に「いじめ等対策委員会」を開催するなど、関係事案を迅速・正確に報告する。
- ・ 「いじめ等対策委員会」の構成員  
校長・教頭・教務主任・校務主任・学年主任・生活指導主任・教育相談担当・養護教諭・当該児童の担任、特別支援コーディネーター・SC・SSW・なごや子ども応援委員会コーディネーターなど
- ・ 機動的で柔軟な対応ができるように、いじめに関する情報は、教務主任を集約担当とし、集約にあたる。

### 4 積極的認知に向けた教職員一人一人の心構え

- ・ 教職員一人一人が多様な背景をもつ児童の理解と配慮も含めた人権意識をもつ。
- ・ 教職員の言動が、児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。
- ・ いじめの認知の判断基準については、加害行為の「継続性」「集団性」「一方的な力関係の有無」「深刻度」などの要素によりいじめの定義を限定して解釈することがないようにする。
- ・ 児童と触れ合う時間をできる限り多く取る。
- ・ 児童の話に耳を傾け、親身になって対応し、児童が何でも相談できる信頼関係を築く。
- ・ いじめ防止対策推進法第2条のいじめの定義に従って、積極的に認知する。
- ・ いじめを見逃ごしたり、気付きながら見逃したり、相談を受けながら対応を先延ばしにしたりしない。認知したいじめは、必ずいじめ等対策委員会に報告をする。
- ・ いじめ（特に、暴力を伴わないいじめ）は、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることが多いことを認識し、ささいな兆候であっても、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知し、指導につなげる。
- ・ 暴力的な行為など「目に見えるいじめ」を目撃した場合は、速やかに止めるなどの指

導を最優先させる。

- ・ いじめの解消は、国の基本方針にのっとり、少なくとも、いじめが止んでいる状態が3か月以上継続し、いじめを受けた児童が心身の苦痛を感じていないと認められる場合において初めて判断する。

### **学校が主体的に取り組む未然防止活動について**

- ・ 年2回(5月と10月)、学校生活アンケートを実施し、全児童の心の状態を把握する。
- ・ 学校生活アンケートを基に、全児童を対象とした教育相談を6月と11月に行い、いじめの未然防止に努める。
- ・ 保健室前に「心のポスト」を設置して、いつでも児童からの相談に対応できるようにする。
- ・ 「心のSOS」を利用して児童の心の状態を把握する。
- ・ スクールカウンセラーや「あったかハート」等、相談機関を伝えるようにする。
- ・ 相談アプリ「STANDBY」を児童に周知し、長期休業中でも学習者用タブレットから児童が相談できるようする。
- ・ 道徳や特別活動、学校行事を通じて、日頃からいじめ未然防止に向けた児童の意識向上を図る。

## **5 未然防止の取り組み**

- ・ 学校の教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感じ取ることのできる機会を全ての児童に提供し、児童の自己有用感が高まるよう努める。
- ・ 児童の心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。
- ・ 集団の一員としての自覚や自信を育むとともに、互いの違いを認め合うことにより多様性を認める。多様性の中で相互に補い合っていく中で、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくる。
- ・ 上記の内容について、学校及び児童の実態を踏まえ、なごや子ども応援委員会と協働して企画・計画・実践を進める。

### **(1) 授業づくり**

- ・ 児童が自らの可能性を最大限に伸ばし、人生をたくましく生きていくことができるよう、児童主体の授業づくりに取り組む。
- ・ 児童一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業を推進する。

### **いじめ防止の視点から**

- ・ 普段の授業より、いじめ防止に向けた取り組みとして、対話を学習の中に取り入れ、学級において互いに認め合う雰囲気を高める。
- ・ 道徳を始め、様々な授業でいじめに関する題材を取り上げる。活動の中で行うロールプレイングや対話活動を通じて、いじめ防止に対する意識を高める。
- ・ 学校行事や特別活動などにおける同学年や異学年交流において、他者の気持ちを考えながら活動する経験を通じて、いじめ防止に関わる実践力を高める。

## (2) キャリア教育の充実

児童の発達段階に応じた自己理解・他者理解を通して、将来どのような生き方をし、どのように社会に貢献し、どのような生きがいを得るのかを考えるキャリア教育の取組を進める。

## (3) 道徳教育・人権教育

道徳教育の実践を通して、豊かな心の育成を図る。特に、「一人一人を大切に」「相手の立場になって考える」「自分がされたくないことは相手にもしない」等、他を思いやる心、自他の生命を大切にすることを育むとともに、「死ね」「うざい」「きもい」など、人権意識に欠けた言葉遣いに対する指導の徹底に努める。

活用資料：「いじめ防止教育プログラム」「人権教育の手引き」「学校における人権教育をすすめるために～実用編～」「人権教育の手引き～みんなで学ぶ人権ワーク週～実践編」など

## (4) 集団づくり

- ・ 社会体験や交流体験の機会を計画的に配置し、他の児童や大人との関わり合いを通して、児童が自ら「人と関わることの喜びや大切さ」に気づき・学ぶ機会を設定する。
- ・ 一人一人の児童が活躍できる学校生活をつくることのできる場や機会を設定し、児童の自己有用感の育成を図る。
- ・ 単に児童が何かを体験すればよい、児童同士が交流を深めればよい、といった意識ではなく、児童の年齢や発達段階に応じた集団の一員としての自覚や態度、資質や能力を育む。そのために、多様性を認め合い、「友達によさに目を向け、積極的に認め合う活動」「グループや学級全体で助け合い、共通目標を達成する活動」など、道徳科の授業はもとより、学級活動、児童会活動等の特別活動において、児童の創意や工夫に富んだ主体的な活動の場や機会を設定する。
- ・ 児童会の取組において、「なごやINGキャンペーン」、「いじめ防止教育・自殺予防教育」等の機会を生かし、児童自身がいじめの問題を自分たちの問題として受け止める、そして、自分たちでできることを主体的に考えて行動できるよう働きかける。

### <学校全体での取組・活動>

「なごやINGキャンペーン」「いじめ防止教育・自殺予防教育」「あいさつ運動」  
「児童会主催の児童会行事」「長なわ大会」「学校美化の日」など

### <各学年での中心となる取組・活動>

- 【1年生】「地域の幼稚園との交流」「地域のお年寄りとの伝承遊びを通じた交流」
- 【2年生】「町探検での地域との交流」
- 【3年生】「学区施設・店探検での地域との交流」
- 【4年生】「身近な地域に関する環境学習」
- 【5年生】「SDGsに関する取り組み」「中津川野外学習」
- 【6年生】「修学旅行」「委員会やクラブなどにおける最高学年としての取組」

## (5) 教育相談

気軽に相談できる存在があることを知らせるために、4年生の児童にスクールカウンセラーとの面談を実施する。

## いじめの早期発見のための主体的な取組

- ・ 年2回(5月と10月)、学校生活アンケートを実施し、全児童からいじめに関する情報を収集する。
- ・ 学校生活アンケートを基に、全児童を対象とした教育相談を6月と11月に行い、いじめの早期発見に努める。
- ・ WEBQU(4年生以上)を通じて、児童が置かれている心理的状况を把握し、教育相談につなげる。
- ・ 保健室前に設置した「心のポスト」を通じて、児童からの相談に適切に対応できるようにする。
- ・ SNS 相談アプリを児童に周知し、長期休業中でも児童からの相談に適切に対応できるようにする。
- ・ 「心の SOS」を活用し、児童の心の状態を把握に努める

## 6 早期発見の取組

学校生活すべての場において、児童をきめ細かく見守る。いじめの早期発見のために、日常的な観察とともに、質問紙によるアンケート調査、教育相談等における面談、スクールライフノートの活用などを計画的に行い、日常の児童の様子を把握する。また、なごや子ども応援委員会と定期的に口頭並びに書面による情報交換を行うことで早期発見に努める。

### (1) 日常的な観察

日頃から児童との触れ合いを多くし、児童一人一人の交友関係、行動、思考の特徴をよく理解するようにし、いじめの兆候、児童が示すサインを見逃さないようにする。

### (2) 「ウェブ版学校生活アンケート」

学級集団づくりに活用する中で、結果として表れる「学級での満足度」「学校生活における意欲」「ソーシャルスキルの定着具合」を基に、状況によって即時に、児童個々への対応を行う。

### (3) 学校生活アンケート「こころのアンケート」を実施

「こころのアンケート」の半期に1回の実施により、誰が被害者か加害者かなどに関係なく、いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握し、未然防止の取組の評価・改善につなげる。

### (4) 緊急的なアンケート調査

重大事態が生じたときなど、早急に事実関係を把握する必要がある場合は、緊急的にアンケート調査を行う。

### (5) 教育相談

- ・ いじめの被害者は「全力で守る」という学校・教職員の姿勢・決意を示す。他の児童のいじめについて見聞きした場合は、勇気をもって相談するよう呼び掛けるとともに、情報の発信元は絶対に明かさないと伝えておく。
- ・ 転入時においては、学級担任以外にスクールカウンセラーや養護教諭などに個別に引き合わせるようにする。
- ・ (2)(3)でのアンケート調査の結果等を基に、全ての児童を対象として、半期に一回、教育相談月間を設ける。
- ・ 児童が希望する場合は、担任以外の教職員、スクールカウンセラーへの相談も可能であることを伝える。

(6) 保護者・地域との連携

- ・ 保護者に対しては、日頃から児童のよい点や気になる点など、学校の様子について連絡するように努めるとともに、児童について気になることがあれば速やかに学校に連絡していただくよう依頼しておく。
- ・ 地域に対しては、「いじめ・問題行動等防止対策連絡会議」の場等を活用し、児童について気になることがあれば速やかに学校に連絡が入るよう依頼しておく。

(7) 相談機関紹介カード「あったかハート」の配布

- ・ 年度当初に、全児童に配布し、各相談機関について周知する。
- ・ ランドセルに入れておくなど、いつでも見ることができることを指導する。

(8) SNS相談

- ・ 相談する先が24時間365日あることを小学4年生～小学6年生の児童に周知し、アクセスコードを配布する。また、学習者用タブレット端末を使って、SNS相談の体験活動をさせる。

7 いじめに対する措置（いじめの重大事態・警察との連携を含む）

- ・ 特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。
- ・ 教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、教育委員会・関係機関等と連携し、対応に当たる。とりわけ、児童虐待や重大ないじめ、自死などにつながる恐れのあるハイリスクな要因を抱えた児童に関しては、早期発見・早期対応の上で、関係機関との連携を図る。
- ・ 児童の個人情報の取扱い等、プライバシーには十分に留意する。

(1) いじめの発見時や相談・通報を受けたときの対応

- ・ 遊びや悪ふざけ、複数で一人を囲んでいる状況など、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めたり注意したりする。
- ・ 児童や保護者からの訴えに対しては、軽視したり後回しにしたりせず、真摯に傾聴し、ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には早い段階からの的確に関わりを持つようにする。その際、いじめを受けた児童やいじめを知らせてきた児童の安全を確保する。
- ・ いじめ行為を発見したり通報を受けたりした教職員は、一人で抱え込まず、速やかに「いじめ等対策委員会」に報告し、情報を共有する。
- ・ 「いじめ等対策委員会」を中心として、速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行い、いじめの認知・判断をする。
- ・ 以下のような「重大事態」については、直ちに教育委員会に報告し、調査に着手する。

○ 「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある」

- ・ 児童が自殺を企図した場合
- ・ 身体に重大な傷害を負った場合
- ・ 金品等に重大な被害を被った場合
- ・ 精神性の疾患を発症した場合

○ 「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある」

- ・ 30日を待たず、1週間をめどに連絡し概要を報告する。

※ 「いじめを受けた児童や保護者からいじめにより重大な被害が生じた」という申し立てがあったとき（人間関係が原因で心身の異常や変化を訴える申し立て等の「いじめ」という言葉を使わない場合を含む。）

- ・ 状況に応じて、所轄警察署・法務局・児童相談所など、関係機関との連携を図る。

## (2) いじめを受けた児童又はその保護者への支援

- ・ 「複数の教職員で見守る」「いじめを行った児童を別室で指導する」など、徹底して守り通すことや秘密を守ることを伝え、安心して学校生活を継続するよう伝える。
- ・ 上記の対応によっても、いじめを受けた児童が学校を欠席せざるを得ない状況が続く場合には、学習の支援など、いじめを受けた児童及びその保護者の心情に寄り添いながら支援する。その際、出欠席の取り扱いや成績への影響について、いじめを受けた児童に不利益が生じないことを初期段階から説明するよう配慮する。
- ・ 当該事案に気づき次第直ちに、いじめを受けた児童及びその保護者の要望・意見を聴き取る。その際、誰がいじめを受けた児童・保護者の聴き取りを行うかについては、いじめを受けた児童・保護者の意向を尊重する。
- ・ 学校は、いじめを受けた児童及びその保護者の「知る権利」を尊重し、いじめの疑いのある事案の背景・経過・事実関係等に関する調査結果その他の事案関連情報の開示及び説明を積極的に行う。
- ・ 保護者には、電話連絡だけでなく、家庭訪問等により、その日のうちに事実関係を伝える。
- ・ 状況に応じて、なごや子ども応援委員会や外部専門家の協力を得る。
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、折りに触れ必要な支援を行う。
- ・ なごや子ども応援委員会に対して、いじめを受けている児童への個別の安全確保、警察と連携した対応の窓口を担うようスクールポリスによる支援の要請を行う。
- ・ 犯罪行為に該当するもの、あるいは強く疑われるものは、教育委員会に一報するとともに警察へ相談又は通報する。

## (3) いじめを行った児童への指導又はその保護者への助言

- ・ いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
- ・ 迅速に保護者に連絡し、事実に対する保護者の理解や納得を得た上、いじめを行った児童を別室で指導する等、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう、保護者の協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。
- ・ いじめを行った児童が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、当該児童の健全な人格の発達に配慮する。
- ・ いじめの状況に応じて、心理的な孤立感・疎外感を与えないよう一定の教育的配慮の下、「特別の指導計画による指導」のほか、「教育委員会との判断による出席停止」、「警察との連携による措置」も含め、毅然とした対応をする。

## (4) 集団への働きかけ

- ・ 傍観者に対しては自分の問題として捉えさせ、観衆に対しては、いじめに加担する



行為であることを理解させる。

- ・ 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせるようにする。
- ・ いじめの解消とは、謝罪のみで終わるものではなく、双方の当事者や周りの者全員を含む集団が、好ましい集団活動を取り戻すことをもって判断するようにする。
- ・ 全ての児童が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

#### (5) ネット上のいじめへの対応

- ・ 名誉毀損やプライバシー侵害等、不適切な書き込み等については、教育委員会に一報するとともに所轄警察署・関係機関に相談し、直ちに削除する措置をとる。
- ・ 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは教育委員会に一報するとともに、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。
- ・ 警察、法務局、関係機関等の専門家を講師とした講演会を実施したり、相談機関の窓口や、関係機関が実施する取組を周知したりする。
- ・ パスワード付きサイトやSNS、スマートフォンや携帯電話のメールを利用したいじめなどについては、より大人の目に触れにくく、発見しにくいいため、学校における情報モラル教育の充実を図る。
- ・ 保護者に対しても、「情報モラル啓発資料」の活用を通して、現状について理解を求めるとともに、家庭における「スマートフォンや携帯電話の使用に関する約束事」を決めておくことなど、折に触れて依頼する。

#### 8 なごや子ども応援委員会との協働

なごや子ども応援委員会コーディネーターを中心として協働を図り、未然防止及び早期発見の取組を進めるとともに問題の解決に努める。

#### 9 校内研修の実施

いじめ対策検討会議の報告や生徒指導提要を活用する等、いじめの防止等のための対策に関する校内研修を前期、後期に1回は実施し、教職員の資質向上に努める。

#### 10 学校評価の実施

学校は、より実効性の高い取組を実施するために、PDCAサイクルに基づき、策定した「学校いじめ基本方針」の見直しを必要に応じて行う。

また、いじめの防止等のための対策に関わる取組等について自己評価を行い、学校関係者評価と合わせて、その結果をたより等で児童及び保護者に伝える。

◆ いじめを発見、訴えを聞いた場合の対応の流れ ◆

直接目撃した

(暴力行為、からかい、暴言など)

通報・相談を受けた

(本人、他の児童、保護者などから)

その場で制止・指導

軽視・放置しない

真摯に傾聴

軽視・後回ししない

即日に、集約担当に報告後、  
一両日中に「いじめ等対策委員会」などを開き、  
関係事案を迅速・正確に報告

いじめの訴えがあったらいじめと認知し、対応する

◆関係児童に関する情報収集  
(当該学級・部活動での様子など)

◆情報の共有

◆対応策の検討・協議・決定

◆関係児童等への事情聴取  
(加害児童が認めない場合、証拠収集への協力依頼)

◆いじめの有無の確認

重大事態

- ◇病院搬送等応急処置
- ◇教育委員会への一報
- ◇なごや子ども応援委員会との協働
- ◇警察・法務局等への相談通報 (校長・教頭)
- ◇緊急アンケートの実施(教務主任・生徒指導主事)

ネット

- ◇教育委員会への一報  
→委託業者への相談
- ◇警察・関係機関への相談通報 (校長・教頭)

- ◆被害・加害児童の保護者への連絡・家庭訪問(担任・教務主任)
- ◆被害児童の安全確保・心のケア(養護教諭・SC)・SPの活用
- ◆加害児童への指導・別室指導・心のケア等の措置(学主・生指・SC)
- ◆観衆・傍観者への指導(学主・生指)
- ◆状況に応じた謝罪等の場の設定(教頭)
- ◆客観的な事実(聞き取りの内容等)を時系列で正確に記録
- ◆なごや子ども応援委員会と協働(なごや子ども応援委員会コーディネーター)

継続指導・経過観察

再発防止・未然防止の取組

# 年間を見通したいじめ防止のための指導計画

	校内研修	諸会議等	未然防止の取り組み	早期発見の取り組み
4月	<p><b>研修①</b> WEBQUの結果を基にした支援を要する児童の実態や対応などの引き継ぎ</p> <p><b>研修②</b> 「いじめ防止基本方針」を基にしたいじめやその対応についての共通理解</p> <p><b>研修③</b> 「いじめ防止教育プログラム」を活用した実践についての共通理解</p> <p><b>研修④</b> 「こころのパンフレット」等を活用した「自殺予防教育」に関する共通理解</p> <p><b>研修⑤</b> 「こころのアンケート①」実施方法の共通理解</p>	いじめ等対策委員会①	<p>認め合う学級づくり 「～さん」と呼び合う互いの人格を認め合う態度</p> <p>失敗を責めない寛容な態度の育成</p> <p><b>学校生活のきまり</b> 明確なルールの設定</p> <p><b>情報モラル教室の実施</b> スマホの安全な使い方に関する指導</p>	<p>「あったかハートカード」の配布</p> <p>「こころのSOS」保護者版の配布</p> <p><b>授業参観①</b> <b>学級懇談会①</b> 保護者向けにスクールカウンセラーの紹介</p> <p><b>こころのSOS①</b> (記名式・4～6年)</p>
5月	<p><b>研修⑥</b> 教育相談月間の実施方法の共通理解</p> <p><b>研修⑦</b> 「WEBQU」実施方法の確認</p>	学校評議員会①	<p><b>環境美化活動</b> <b>運動会</b> 学級全員で取り組む良さの共有</p>	<p><b>スクールカウンセラーによる4年生全員面談</b></p> <p><b>こころのアンケート①</b> (記名式・全児童)</p> <p><b>WEBQU①</b> (記名式・4～6年)</p>
6月	<p><b>研修⑧</b> 「WEBQU」結果の活用方法の理解と児童の実態把握</p>	いじめ等対策委員会②	<p><b>教育相談月間①</b> こころのSOSとWEBQUの活用</p> <p><b>WEBQUを活用した学級経営の見直し</b> 学年で結果を共有 学級の強み弱みの分析</p>	こころのアンケートの結果分析及び、支援方法の共通理解
7月	<p><b>研修⑨</b> (子ども応援委員会)スクールカウンセラーによる、気になる児童への支援方法の検討</p> <p><b>研修⑩</b> 「学校評価アンケート」の実施方法の確認</p>	ブロックいじめ防止連絡会議① いじめ等対策委員会③	<p><b>児童会行事①</b> 児童会を主体とした集会</p>	<p><b>個人懇談会</b> 保護者との信頼関係を深める 児童に関する情報の積極的な共有</p> <p><b>学校評価アンケート①</b> (無記名・全児童)</p>

事案発生時にいじめ対策委員会の随時開催

分かる授業・全員が参加できる授業の実施

スクールカウンセラーとの連携

	校内研修	諸会議等	未然防止の取り組み	早期発見の取り組み
8月			気になる児童への積極的な電話連絡	
9月	研修① 「WEBQU①」結果を基にした児童の支援方法の検討  研修② 「学校評価アンケート」結果を基にした学級の実態把握とその共有	いじめ等対策委員会④ 学校評価委員会①	学校評価アンケートを活用した学級経営の見直し 学年で結果を共有 学級の強み弱みの分析  児童の目線に立った学級経営 休み時間の児童との会話	長期休業明けで気になる児童への教育相談の実施(随時)  こころのSOS②の実施(記名式・4～6年)
10月	研修③ 「こころのアンケート②」の実施方法の確認  研修④ 全学年教育相談月間の実施方法の確認	いじめ等対策委員会⑤ 学校評議員会②	児童の目線に立った学級経営 児童のグループでの会食 休み時間の児童との会話	WEBQU②の実施(記名式・4～6年)  授業参観②  こころのアンケート②の実施(記名式・全児童)
11月	研修⑤ 2回の「WEBQU」結果の比較を基にした児童の実態把握とその共有 研修⑥ (子ども応援委員会)スクールカウンセラーによる、気になる児童への支援方法の検討 研修⑦ 「こころのSOS」を活用した自殺予防教育の共通理解	いじめ等対策委員会⑥	なごやINGキャンペーンの取り組み  教育相談月間② 「こころのSOS②」 「WEBQU①②」 「こころのアンケート②」の活用  WEBQUの結果・SCのアドバイスを生かした学級経営の見直し	教育相談(全児童対象)
12月	研修⑧ 人権教育講演会の開催  研修⑨ 2回の「こころのアンケート」結果の比較を基にした児童の実態把握とその共有	いじめ等対策委員会⑦	作品展 学級全員で取り組む良さの共有	人権週間 ・校長の講話 ・人権を意識した授業  個人懇談会の実施 保護者との信頼関係を深める 児童に関する情報の積極的な共有

事案発生時にいじめ委員会の随時開催

分かる授業・全員が参加できる授業の実施

スクールカウンセラーとの連携

	校内研修	諸会議等	未然防止の取り組み	早期発見の取り組み
1月		いじめ等対策委員会⑧	児童会行事② 長なわ大会  薬物乱用防止教室  児童の目線に立った学級 経営 休み時間に児童と遊ぶ	学校評価アンケート② (無記名・全児童)  こころのSOS③ (記名式・4～6年)
2月	研修⑳ 2回の「学校評価アンケート」結果の比較を基にした学級の実態把握とその共有  研修㉑ いじめ防止基本方針の見直し	学校評議員会⑨ いじめ等対策委員会⑨ ブロックいじめ防止連絡会議②	児童の目線に立った学級 経営 休み時間に児童と遊ぶ  児童会行事③ <感謝の会> 交通指導に対する地域の方々への感謝の気持ちを表す	こころのアンケート③ (記名式・全児童)  教育相談(該当者のみ)  授業参観③ 学級懇談会②
3月	研修㉒ 支援すべき児童についての次年度への引継ぎ準備(校務支援ソフトへの入力)	いじめ等対策委員会⑩ 卒業・進級認定会議	児童会行事④ <6年生を送る会> 6年生への感謝の気持ちを表す	

事案発生時にいじめ委員会の随時開催

分かる授業・全員が参加できる授業の実施

スクールカウンセラーとの連携



